学習内容報告書

学校名	静岡県沼津市立静浦小中一貫学校
授業者	加藤　匡崇

1.　単元計画

2.　単元名

沼津のよさ、再発見

2-1.　学年

４

2-2.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合

2-3.　単元の概要

「課題の設定」では、沼津港の魅力について３年時の学習を振り返る。この際、３年の時に学んだ総合の勉強の仕方（課題を自分たちで設定し、解決の方法を考え、取り組み、表現する。）を確認する。昨年、自分たちが静浦の魅力は「ひもの」だと学習した子どもたちが、他に魅力があるのか考えるところから学習を始めた。「漁港なのに、魚をどうして売っていなかったのか調べたい」という課題を持ち、漁師さんにインタビューしたり、沼津港に足を運んだりする活動を計画した。

「情報の収集」では、実際に漁師さん、沼津港で働く店員、観光客にインタビューしたり、自分の目で確かめたりする活動を実践した。

「整理・分析」では、インタビューで集めた情報や自分たちで気が付いた情報を全体で共有した。集めてきた情報をただ羅列するだけでは、その情報を使うことができないと子どもたちが気付き、どのように分類すると発表に使うことができるのか考える場を作る。また、情報同士がどのように関連しているのか考えることで自分たちの作った問いを解決するためにはどの情報が有効なのか考えることを期待している。

最後の「まとめ・表現」では、子どもたちが事実と主張の整合性を考える。整理の段階で様々な情報があることを知った子どもたちがどの情報が自分の言いたいことに１番近いか（関連している）吟味する。なぜ・なにシートで「事実」と「主張」の繋がりを確認しながら行っていく。その際、今まで使用していた「たくさん」「多くの」などの数量を表す言葉をより具体的に示すために、数字で表現したり、グラフを活用したりして集めた情報を使うことを期待している。

2-4.　単元設定の理由・ねらい

昨年度取り扱った静浦漁港をきっかけにして、沼津港の学習を行う。沼津港について調べていくことで、多くの人が集まる理由、沼津港が人気の理由などを自分たちの取材から考えていく。自分の身近ではない人たちにどのように取材したらいいか、考え、実践することで、情報の収集の仕方も習得することをねらっている。単学級の本校だからこそ、地域に出て様々な人と交流することが子どもたちを刺激し、学びがより深まって欲しいと考えている。

2-5. 育みたい資質や能力、態度

・課題の解決に必要な知識・技能を身に付けるとともに、静浦漁港や沼津港の良さに気付く。
・静浦には漁師がいて、仕事をしているのに「沼津港」には魚が全然いない。「静浦漁港」には多くの魚が集まるという事実の違いから課題を作り、その解決を目指して、インタビューを通して情報を集める。それらの情報から自分の考えに合うものを選択し、根拠を明らかにして発表する。

2-6. 単元の展開（全 25 時間）

時数	学習活動・主な内容	○教師の指導 / ☆主な評価 ・外部連携 / 使用教材等
1～10	第１次 ○３年生の学習を振り返り、４年生の学習を見通す。 ○漁師さんに話を聞く。 ○沼津港見学 ○集めた情報を整理し、もっと調べたいことをまとめる。	○３年の総合学習を想起させ、総合的な学習の時間の流れを確認する。 ○静浦の魚が沼津港に行っていることに興味をもたせ、ＫＷＬシートを利用し、単元を貫く学習問題を見つける。 ☆自分の知っていることと新しく知った情報から解決したい問いを作ろうとしている。 ・静浦漁港　青壮年部　沼津漁港／ＫＷＬシート
11～17	第２次 ○インタビューの仕方を学習する。 ○デジカメを使った写真の撮り方を学習する。（操作方法、マナー） ○沼津港でインタビュー活動を行う。	○インタビューカードの必要性に気づかせ、どのようなカードが必要か考えさせる。 ☆インタビューカードに沿って沼津港で店の人、観光客にインタビューを行う。 ・深海水族館　沼津漁港　びゅうお　／ インタビューカード　デジカメ
18～22	第３次 ○インタビューのまとめ、分析。 ○問いに対する答えを調べた事実から考える。	○集めた情報をどうやって整理するかを考えさせる。 ☆問いに対する答えを調べた事実（集めた情報）から考えようとしている。 ・なぜ・なにシート
23～25	第４次 ○プレゼンスライドの作成計画を立てる。 ○プレゼンスライドの作成。 ○紙プレゼンの発表。	○プレゼンの構成を考えさせる。 ☆伝える相手を意識して、スライドを作り、発表しようとしている。

3. 学習活動の実際

3-1. 単元における位置づけ

単元 | 25 | 時間中の | 19 | 時間目

3-2. 本時の目標

Ａ　：　集めた情報をそのまま使い、紙プレゼンを作成、発表することができると思っている。
・観点を決め、集めた情報を分類する。
・発表を聞く人のことを考え、どのように情報を見せればいいか考え、資料の提示の方法を比べる。
Ａ’：　集めた情報を捉え直し、どの情報を使うと自分の考えたことに合っているか考え、紙プレゼンを作ろうとする。

3-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	＊教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
○沼津港でどんな情報を集めたかな。 ・東京から２２人も来ている。 ・長崎や宮城など静岡県外から来る人が多いね。 ・魚を食べに来る人が３６人もいる。 ・沼津港に来た理由で次に多いのは深海水族館で、１６人だ。 ・４回目以上の人は、３５人。初めての人は、４６人いた。 ・２８人の人がテレビで沼津港を知って訪れている。	＊Ｔ１：グループごとに集めた情報を板書していく。その際、子どもたちに問い返しながら集めた情報を共有していく。 ＊Ｔ２：子どもたちの情報を板書する。
○集めた情報でプレゼンを作っていこう。 ・う～ん。どの情報を使えばいいかな。 ・分かったような…分かりにくいような。 ・どうしたらもっと良くなるのかな。	＊Ｔ１：子どもたちが国語、社会で新聞作りをした経験（情報の分類、選択）を想起させ、どうしたら聞く人が分かりやすいプレゼンになるか問いかける。 ＊Ｔ１、Ｔ２：机間支援を行い、個別に声をかける。
◎情報を使いやすくするにはどうしたらいいかな。 ・社会や国語の新聞でやったように情報を分類したらどうかな。 ・いろいろな県から人が来ているから、グラフにした方が東京から来た人が目立つんじゃないかな。 ・沼津港が人気の理由は、魚を食べに来る人が多いからだね。改めて分かった。	☆集めた情報を捉え直し、どの情報を使うと自分の考えたことに合っているか考え、紙プレゼンを作ろうとしている。（紙プレゼン）
○これからプレゼンを作っていこう。	

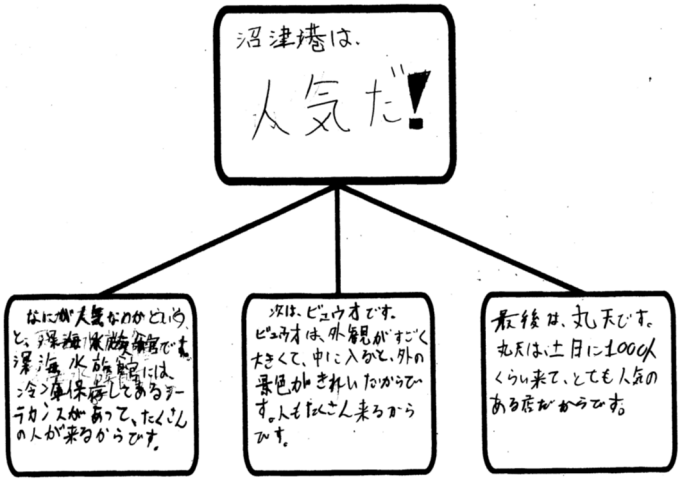
4.　今回の活動の自己評価

「整理・分析」の時間であるため、子どもたちが集めた多くの情報をどう効果的に活かしていくか子どもたちが経験する時間にさせたかった。総合的な学習の時間の経験が浅い子どもたちは、自分たちが収集した情報を全て使おうとしていた。それらの中から自分がプレゼン作成に必要な情報だけを選択するために、分類を行った。情報を分類する過程で子どもたちの思考は活発に働いていたと考えるが、子どもたちで交流する時間をもっと設定した方が良かったと考える。自然発生的に話合いは生まれていたが、時間を確保した方が教育効果が上がったと思う。

5.　今後の課題

どの情報が自分の考えに関連していて、どの情報があまり関連していないのか自分で軽重を付け、選択できるようになってもらいたいと考える。こうした情報を整理する力は、今後の様々な学習で必要になってくる力だと考えている。事実と主張の整合性を保ちながら、吟味していく経験を今後も積み重ね、子どもたちの情報を選択する力を磨いていきたい。また、同じ情報でも、表がいいのか、グラフがいいのか、項目はどうするのかなど、集めた情報をそのまま提示すのではなく、聞き手、読み手を意識して情報を提示する力も９年間をかけて育てていきたい。

6.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

子どもたちの身近な地域について学習していくのだが、ただの地域学習や知識だけではなく、地元の産業と関係する人たちについても迫っていきたい。また、自分たちで課題を作り、解決するという総合的な学習の時間だからできることを大切にしていきたい。

今回、子どもたちは「沼津港」を知ることで、「静浦の漁師」が獲った魚が多くの人に消費されていることを知ったが、漁師の仕事やどんな魚が獲られているのかなど地元を知る学習が抜けてしまっていたのが残念だった。身近だからこそ、知らないこと、見えていないことに気付くきっかけを地域学習で子どもたちに与えたい。また、インタビューという校内で実践したことがある情報収集の仕方を外部でやることは子どもたちの大きなモチベーションになった。「本物」の活動を単元の中に積極的に取り入れることが、子どもたちの心に火をつける大きなきっかけになると感じた。